

株主通信 Vol.12

中間期(2007.4.1~2007.9.30)



Insight and Information

お客様と同じ環境で

上の写真の大型油圧プレス機「HED800」は当社の設備の一つ。3軸で動作し、モーションを自由に設定することが可能なため、金型ユーザーと同様の生産環境を再現しての共同開発や、自社技術の開発に活用しています。

Contents

事業紹介	2
株主の皆さまへ	4
各事業の実績(2008年3月期中間)	7
特集:環境貢献とニチダイ	8
技術TOPICS「S-MAXシステム」	10
決算ハイライト	11
中間連結財務諸表	12
会社概要/株式情報	14

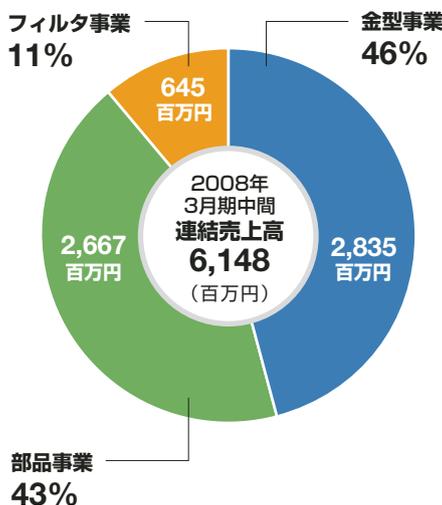
証券コード6467

株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION

ニチダイグループは「他社の追従を許さない高い技術力」をコアに、3つの事業を展開しています

おもに、自動車部品の生産に使用される精密鍛造金型を供給する「金型事業」。部品アッセンブリと精密鍛造品の量産を行う「部品事業」。あらゆる産業で用いられる高機能フィルタの開発・生産を担う「フィルタ事業」。

ニチダイグループは独自の技術開発力をコアに、これら3つの事業を展開しています。



事業の特長についてはホームページ「What's NICHIDAI～ニチダイのすべてがわかる～」をご覧ください。



<http://www.nichidai.jp/whats/index.html>

ニチダイの強み・市場背景

Forging Die Business

金型事業

製造プロセスを革新する加工法で金属を常温で、削ることなく、1回で複雑な部品形状に成形できる理想の加工法「ネットシェイプ」。生産性を大幅に向上させるこの加工法は、自動車部品などの大量生産で活躍しています。

●**トータルエンジニアリングの提供で顧客ニーズに対応**
ニチダイでは、精密鍛造金型の生産のみならず、研究開発から設計・試作、鍛造ラインの提供、部品製造まで手がけており、精密鍛造領域に関わるトータルエンジニアリングの提供が可能です。



Components Business

部品事業

アッセンブリと精密鍛造品生産の両軸でディーゼルエンジン用VGターボチャージャー部品の組み立て(アッセンブリ)と、精密鍛造品の生産という両軸で事業を展開しています。

●世界的な自動車環境規制強化を追い風に

世界的に自動車の環境規制が高まっているなか、販売される乗用車の約半数がディーゼルエンジン車である欧州を中心に、環境負荷物質削減に貢献するVGターボチャージャーの需要が高まっています。

日欧のディーゼルエンジン排ガス規制(単位:g/km)

項目	日本			欧州		
	2003年～ 新短期規制	2005年～ 新長期規制	2009年～ ポスト新長期規制	2000年～ Euro3	2005年～ Euro4	2008年～ Euro5
粒子状物質 (PM)	0.052	0.013	0.005	0.05	0.025	0.005
窒素酸化物 (NOx)	0.28	0.14	0.08	0.50	0.25	0.20

Filter Business

フィルタ事業

高機能フィルタを多様な産業に供給。液体やガス、オイルなどをろ過するために不可欠な産業用フィルタ。独自の積層焼結技術により、多くの産業用フィルタを開発・生産しており、幅広い分野で活用されています。

●独自の積層焼結技術が生み出すフィルタ群

ニチダイフィルタが生産する積層焼結金網フィルタは、独自の積層焼結技術を駆使し、複数枚のステンレス金網を交錯させることで、繊細で均一な理想的ろ過構造を形成し、幅広い産業分野に利用されています。



製品の特長

● 高精度でロスの少ない部品生産を実現

ネットシェイブ加工は、切削加工や熱を加えた鍛造と比べ以下のような特長があり、特に自動車部品の生産に適しています。



精密鍛造金型

- ① 削らないため材料ロスが少ない
- ② 高精度な部品成形
- ③ 生産のスピードアップを実現
- ④ 高強度な部品成形が可能

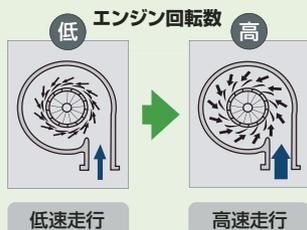
● 環境負荷物質の排出を抑制する独自の構造

VGターボチャージャーは、エンジンの回転数に合わせて空気量を制御する部品で、粒子状物質 (PM) や窒素酸化物 (NOx) など環境負荷物質の排出を抑制します。

※8~9ページに詳しい情報を載せました。



VGターボチャージャー部品



低速走行

高速走行

● 一体構造化により耐久性に優れた特長を發揮

ニチダイフィルタが生産するフィルタは、何枚ものステンレス金網を一体構造化しています。0.3~200ミクロンという幅広い過精度に対応するとともに、機械的強度、耐蝕性、耐熱・耐寒性、加工性などに優れた特性を發揮します。また洗浄することで何度も再利用することができる特長をもっています。



フィルタ断面図



オイルろ過用フィルタ



ガスろ過用フィルタ



ポリマーろ過用フィルタ

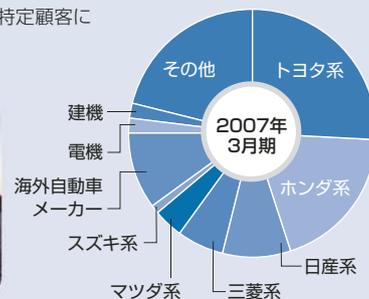
ユーザー

● 自動車部品メーカーに幅広く供給

顧客の約80%は自動車関連企業。特定顧客に依存せず、多くの国内メーカーの系列部品企業と取引しています。



顧客別売上高構成比



● 欧州向けディーゼルエンジン車に搭載

VGターボチャージャー部品は、メーカー納入後、主に欧州向け乗用車のディーゼルエンジンに搭載されます。また精密鍛造部品の生産では、おもに国内外の自動車部品メーカーに供給しています。



● 基幹産業から先端産業分野まで幅広く供給

石油化学、ガス、原子力などのエネルギー分野、プラスチックなどの化学分野、繊維分野、医薬品・食品分野の他、宇宙ロケットにも採用されるなど、さまざまな産業で活用されています。最近では 液晶用フィルム生産に用いられる高機能樹脂(ポリマー)用フィルタの伸びが顕著になっています。



液晶工場



飲料生産ライン



石油化学



ロケット

© JAXA

「部品」「フィルタ」の各事業が牽引し、引き続き増収増益を達成 フィルタ事業では、タイの生産拠点が稼働します



代表取締役社長 **古屋 元伸**
(ふるや もとのぶ)

株主の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当中間期の当社グループの業績、通期の見直し等につきまして、ご質問にお答えする形で概要をご説明いたします。

株主の皆さまからのご質問にお答えします

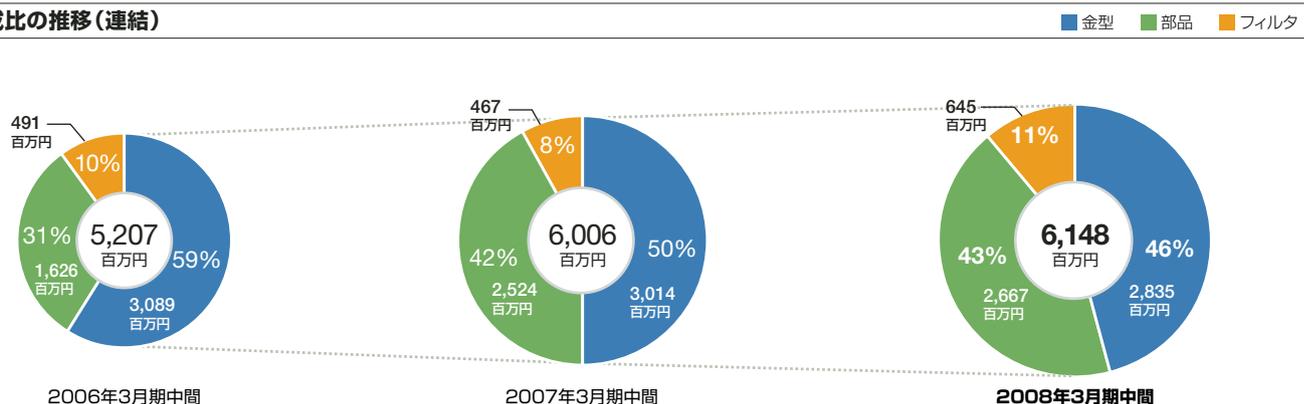
Q 中間期の業績について教えてください。

A 当中間連結会計期間は、連結売上高は61億4千8百万円（前期比2.4%増）、連結経常利益は5億1千2百万円（前期比10.9%増）と増収増益を達成することができました。

事業別に見ますと、主力の金型事業における収益の減少を、部品事業とフィルタ事業の収益増大が補った形となりました。金型事業の売上高減少は、主要ユーザーが量産対応に追われ新規開発品の需要が停滞し、当社の得意とする新規開発品のニーズが減少したことが大きな要因です。また北米子会社 NICHIDAI AMERICA CORPORATION (NAC) では、計画的に社内での生産品種を絞り込んだため、収益性は向上しつつあるものの、売上減少によって引き続き赤字となりました。

一方、部品事業では、スクロール鍛造品^{*}の増加などによって売上は増大。また、この間、拡大しているVGターボチャージャー部品

売上構成比の推移(連結)



の組立では、新品種の試作品をスムーズに量産化でき、生産効率も高めることができたことから利益面でも大きく貢献しました。

フィルタ事業では、石油掘削用フィルタの需要増大に加え、食品や航空宇宙産業向けフィルタが増加。生産設備は高水準で稼働し、大幅な増収増益となりました。

※スクロール鍛造品:カーエアコンのコンプレッサ向け製品

Q 通期の見通しについて教えてください。

A 通期では、連結売上高125億円(前期比3.3%増)、連結経常利益10億8千万円(前期比3.2%増)、連結当期純利益5億7千万円(前期比5.0%増)を見込んでおり、期初計画との変更はありません。

下期の各事業を見ると、金型事業では、まず国内において中部地区での新規案件の需要増加と主力ユーザーの生産増大が見込めます。加えて海外においては、インド地域への日系メーカーの進出による新規開発案件などによって、売上増を予想し

ています。またNACでも、日系メーカーの量産品による売上が増加する一方、生産効率化によって赤字幅を減少させます。こうしたことから、下期の金型事業の収益は、上期と比較して増加する見込みです。

一方、部品事業では、見込んでいたVGターボチャージャー部品の新品種が次期以降にずれ込むため、上期と比較して売上高は若干低い水準となります。フィルタ事業は、アジアでの石油掘削用フィルタの需要増加によって、ほぼ計画どおりに推移すると予想しています。

Q 中期経営計画の進捗について教えてください。

A 当社は2005年度から「成長と変化」というテーマを掲げた3年にわたる中期経営計画を推進してきました。終了年度を間近に控えた現在、売上高は順調に増大し、ほぼ計画通りに達成できる見通しです。しかしながら、計画期間中に新事業であるアッセンブリ事業が大きく成長したものの、主力である金型事業の売

部門別売上高と損益の状況

(単位:百万円)

	2007年3月期中間	2008年3月期中間	
	実績	実績	伸び率
金 型			
国内	2,428	2,327	△4.2%
海外	408	388	△4.9%
ニチダイアメリカ	337	243	△27.7%
(連結消去)	(159)	(124)	△22.0%
合計	3,014	2,835	△5.9%
(うち商品)	(84)	(18)	△77.8%
部 品	2,524	2,667	5.7%
フィルタ	467	645	38.1%
連 結	6,006	6,148	2.4%

	2007年3月期中間		
	売上高	営業利益	利益率
金 型	3,014	261	8.7%
部 品	2,524	181	7.2%
フィルタ	467	59	12.8%
連 結	6,006	502	8.4%

	2008年3月期中間		
	売上高	営業利益	利益率
金 型	2,835	119	4.2%
部 品	2,667	321	12.0%
フィルタ	645	127	19.7%
連 結	6,148	568	9.2%

*百万円未満は切り捨て。

経営課題

1. 各事業におけるグローバル展開の推進

背景

- 日系自動車メーカー及び自動車部品メーカーの海外展開の推進
- 顧客からの製造拠点の海外進出要請の高まり

2. 技術革新への対応

背景

- 環境関連技術をはじめとした、自動車メーカーの研究開発の推進



上高が伸び悩んだため、事業構成と利益構造が変化し、経常利益ベースでは未達の見込みです。今後は、新事業と当社のコア技術「ネットシェイプ」などとの相乗効果を高め、収益力を向上させることを重要な課題と捉えています。

また主要課題として掲げた「グローバル展開の推進」では、フィルタ事業におけるタイでの合併会社設立のように、次のステージへの道筋をつけることができました。2007年2月に設立したこの「THAI SINTERED MESH CO.,LTD.」は、11月から操業を開始し、2008年の年初までに順次、生産体制を拡大して本格稼働することから、次期の売上に貢献するものと考えています。

当社では下期より、生産体制の強化を目的とした「ものづくりプロジェクト」を立ち上げていきます。このプロジェクトは、当社が長年にわたって培ってきた精密鍛造金型の生産技術を再点検し、「品質・コスト・納期」への対応をさらに向上させることを目的としています。

このように当社グループでは、グローバル展開を視野に、環境技術をはじめとする技術革新への対応に積極的に取り組んでおります。

今後とも株主の皆さまにおかれましては、一層のご指導、ご鞭撻を賜り、ニチダイグループのさらなる成長にご期待いただきますよう心からお願い申し上げます。

2007年11月
代表取締役社長 古屋 元伸

中間実績および期末業績予測

(単位:百万円)

	2007年3月期中間		2008年3月期中間		2007年3月期		2008年3月期	
	実績	実績	伸び率	実績	実績	業績予測	業績予測	
単独								
売上高	5,361	5,383	0.4%	10,619	10,900			
売上総利益	1,139	1,290	13.2%	2,399	2,587			
販売管理費	707	797	12.7%	1,397	1,492			
営業利益	432	492	14.0%	1,002	1,095			
営業外損益	△37	△52	—	△119	△95			
経常利益	395	440	11.4%	883	1,000			
中間(当期)純利益	224	190	△15.1%	△372	465			
連結								
売上高	6,006	6,148	2.4%	12,095	12,500			
売上総利益	1,336	1,511	13.1%	2,808	2,956			
販売管理費	834	942	13.0%	1,669	1,776			
営業利益	502	568	13.3%	1,139	1,180			
営業外損益	△40	△56	—	△92	△100			
経常利益	461	512	10.9%	1,046	1,080			
中間(当期)純利益	266	266	0.3%	543	570			

* 百万円未満は切り捨て。

業績の推移と通期(2008年3月期)予測

(単位:百万円)



各事業の実績(2008年3月期中間)

金型事業

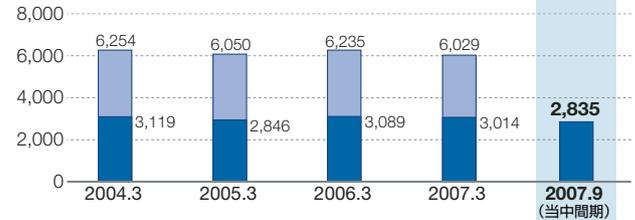


国内では新規案件の減少から、売上高は前年同期比減となりました。海外では、インド地域は増加したものの、他の地域が伸び悩んだことなどから前年同期比減となりました。

この結果、金型事業の売上高は28億3千5百万円(前年同期比5.9%減)となりました。

金型事業売上高推移(連結)

■ 中間期 ■ 通期 (単位:百万円)



部品事業

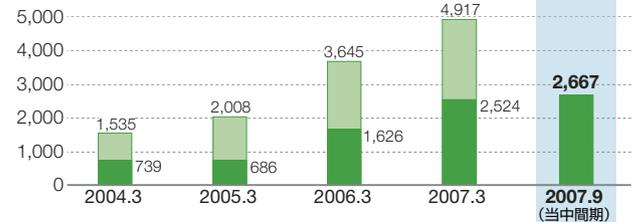


VGターボチャージャー部品の機種が増加し、生産も安定的に推移しました。またスクロール鍛造品も増産しました。

この結果、部品事業の売上高は26億6千7百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

部品事業売上高推移(連結)

■ 中間期 ■ 通期 (単位:百万円)



フィルタ事業

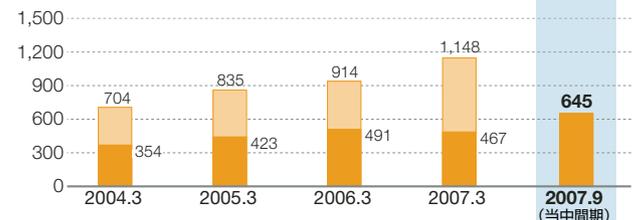


石油掘削用フィルタに加えて、食品、航空宇宙関係などの分野で堅調に推移しました。

この結果、フィルタ事業の売上高は6億4千5百万円(前年同期比38.1%増)と大幅に増加しました。

フィルタ事業売上高推移(連結)

■ 中間期 ■ 通期 (単位:百万円)



環境保全の一端を担う技術開発とものづくりに努めています

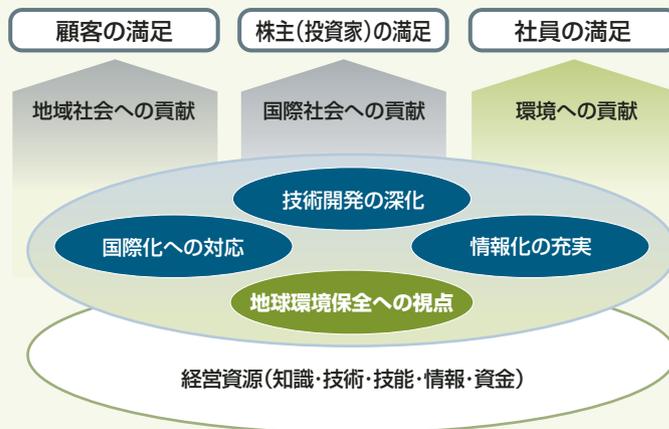
▶ 持続可能な社会の構築に貢献する企業であるために

当社は経営理念の中で、顧客、株主、社員の満足度を高次元で実現することに加え、地域社会や国際社会、環境に貢献することを明記し、幅広いステークホルダーに対する責任を意識した経営を実践しています。

そのうち「環境への貢献」に関しては、お客様とともに環境保全に関連した技術開発へ取り組むなど、事業を通して環境負荷低減に貢献しています。



経営理念



▶ 次代に向かう自動車業界。その環境保全対応技術と当社の役割

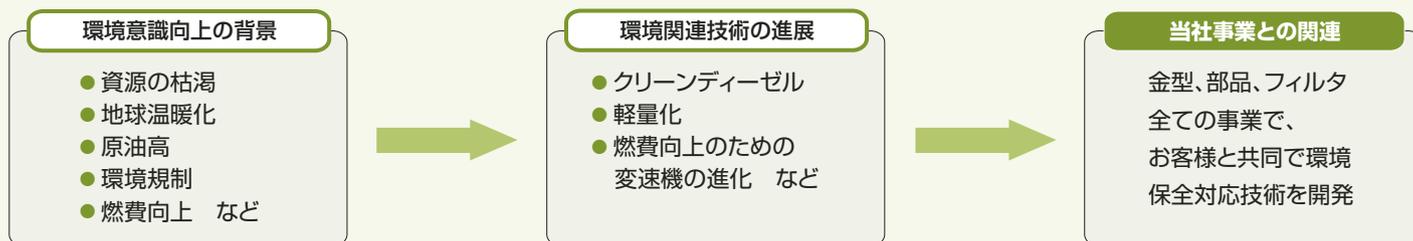
当社の主要な顧客業界である自動車業界では、温暖化防止や資源枯渇などを背景に、高度な環境技術が求められ、装置や部品などの開発が活発化しています。

下図は、自動車産業における環境問題と、それを解決する技術開発例を示したものです。燃費節減のための軽量化の推進、クリーンな次世代車の開発など、環境保全に対応する技術は当社

の全事業に関連していることがわかります。

自動車業界では、環境技術を制することが、次代の競争優位を確立するための条件とされています。当社はお客さまと共同して、環境技術の開発に積極的に取り組んでいます。次ページでは、各事業における事例をご紹介します。

自動車産業における環境技術への要請



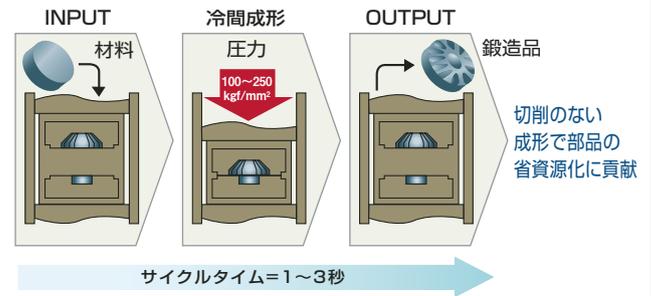
金型事業では

部品の省資源化や軽量化を実現する金型を開発・提供

当社のコア技術である「ネットシェイプ」は、金属素材を切削することなく成形できるため、廃棄物を削減し、省資源化に貢献する技術と言えます。

自動車業界では、燃費性能を向上させるために、アルミニウムなどの難加工材を用いた部品軽量化や、ミッション、エンジンなどを構成する重要部品の新規開発が進んでいます。これらの開発と生産に、金型の設計から製造まで一貫して担える当社のトータルエンジニアリング力が貢献しています。

精密鍛造工程



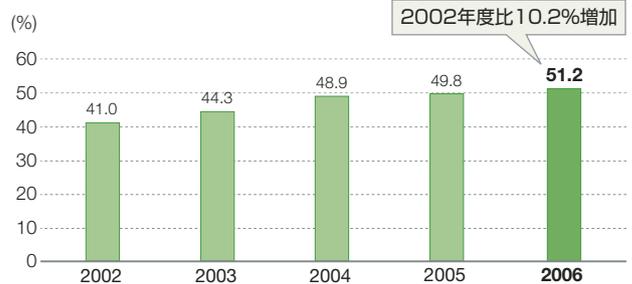
部品事業では

環境負荷物質の排出を抑制する部品を供給

欧州ではガソリン車と比べCO₂排出量が少なく燃費のいいディーゼル車の普及が進んでいます(右図参照)。この背景には、近年のエンジン周辺機構などの大幅な技術革新が、黒煙として生じるPM(粒子状物質)、光化学スモッグの要因となるNO_x(窒素酸化物)などの排出抑制を可能にしたことがあります。

当社は、ディーゼルエンジンから排出される環境負荷物質を削減する機構「VGターボチャージャー」の根幹をなす部品を供給しています。当社がアッセンブリを担う重要部品は、PMやNO_xの排出抑制に貢献するほか、燃焼効率の向上などにも役立っています。

新車登録台数(乗用車)に占めるディーゼル車の割合(EU平均)



出典:ACEA(欧州自動車工業会)

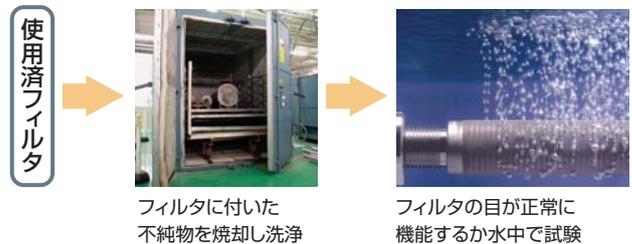
フィルタ事業では

再利用可能な製品や環境対応型製品を開発

当社のフィルタ事業では、複数枚のステンレス金網を重ね合わせて焼結した積層焼結金網フィルタを開発しています。耐熱性と強度に優れているため、洗浄すれば再利用が可能であり、廃棄物削減と低コスト化に寄与することでユーザーから注目されています。

また基盤とする積層焼結技術を活用することで、ディーゼルエンジン車の排気ガスフィルタなどへの利用可能性も広がっており、開発の進展が待たれています。

再利用する際の洗浄と試験の様子



生産性を高める最先端の「S-MAXシステム」

▶ 高品質・生産効率の向上を同時に実現

当社は多様な生産管理システムを開発・導入し、製品の
高品質化と効率的な生産を推進しています。

この一例として、工作機械メーカーと共同開発した
「S-MAXシステム」があります。

このシステムの大きな特徴は、図面設計から加工プロ
グラムまで一括管理できることです。従来は設計図を見
ながら、製造現場でプログラミングしていましたが、この
工程を省いたことで、ミスのない精度の高い加工ができ
るようになり、製品の非適合率は大幅に減少しました。

この結果、本システム採用ラインにおいて稼働率が
10%アップしたのに加え、人件費が40%削減でき、当社
の競争力向上に寄与しています。

特長

1. 製品精度の向上

2. 品質の安定

3. 生産効率の向上

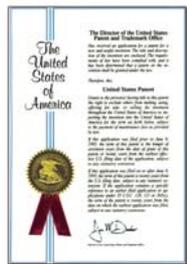
■ 米国で特許を取得

特許証(米国)

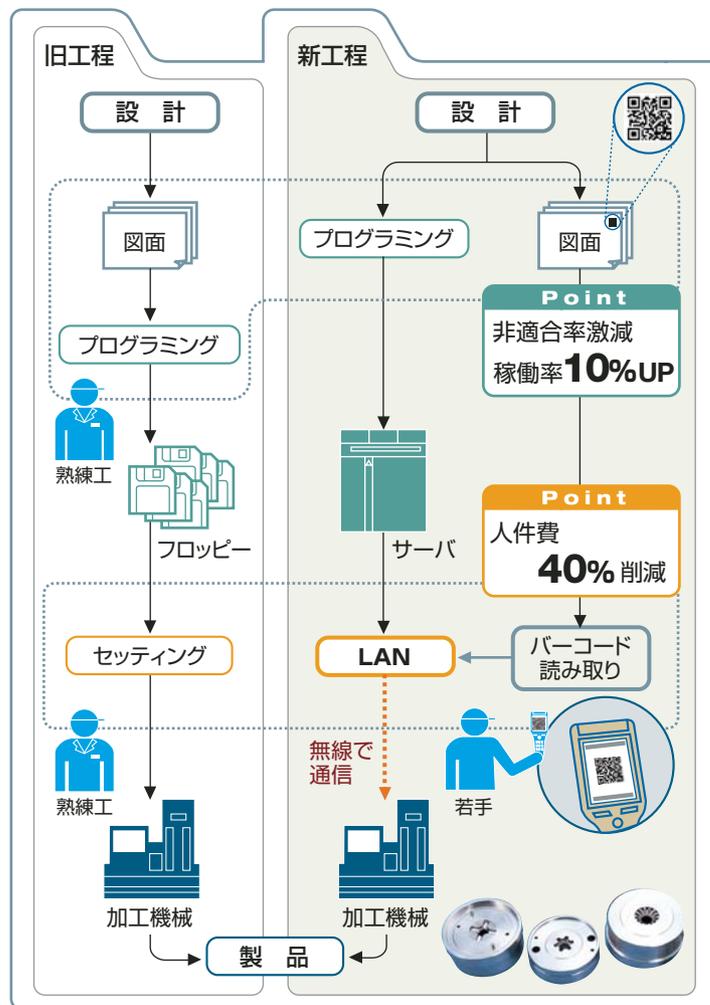
[US 7,016,758 B2]

2005年、米国にて特許を取得しました。

日本、独国においても現在出願中です。



■ S-MAXの概要

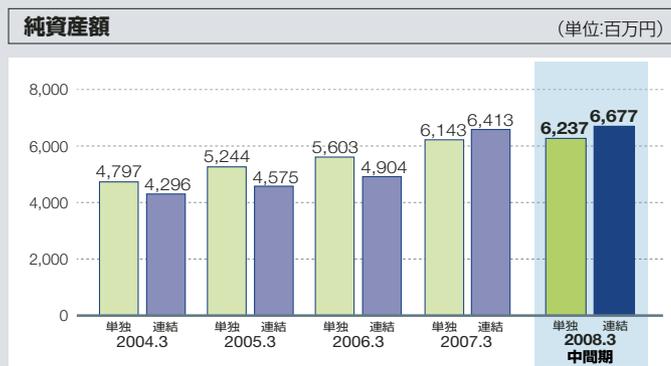
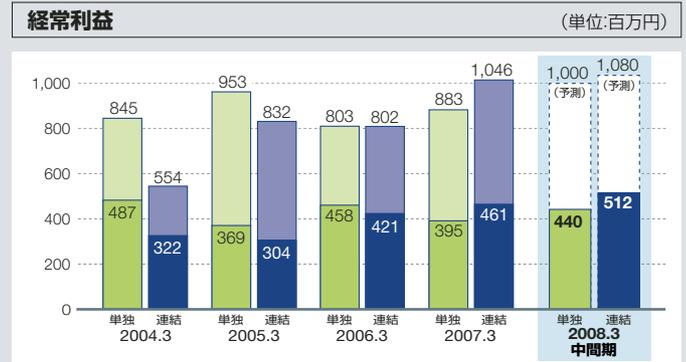
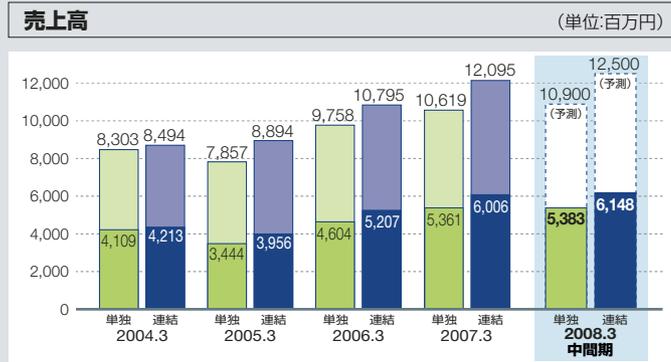


<システムの概要>

CAD/CAMによる設計図面の作成→設計図面をサーバのデータベースに集約→無線
LAN→加工プログラムをバーコードリーダーで読み取り、加工機械に自動ダウンロード

決算ハイライト

■ 通期(単独) ■ 通期(連結)
■ 中間期(単独) ■ 中間期(連結)



* 2007年3月期の中間および期末配当はそれぞれ、普通配当金7円50銭、記念配当金2円50銭を加えた合計10円でした。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科目	前中間期	当中間期	前期
	2006年 9月30日現在	2007年 9月30日現在	2007年 3月31日現在
(資産の部)			
流動資産			
1▶ 現金及び預金	1,274	2,757	1,179
受取手形及び売掛金	2,833	3,113	3,457
たな卸資産	1,313	1,295	1,285
その他	149	189	111
貸倒引当金	△ 25	△ 22	△ 26
流動資産計	5,545	7,334	6,007
固定資産			
有形固定資産	5,834	5,726	5,714
無形固定資産	54	44	50
投資その他の資産	366	273	279
固定資産計	6,255	6,044	6,044
繰延資産計	10	23	8
資産合計	11,811	13,401	12,060

* 百万円未満は切り捨て。

(単位:百万円)

負債および純資産の部 科目	前中間期	当中間期	前期
	2006年 9月30日現在	2007年 9月30日現在	2007年 3月31日現在
(負債の部)			
流動負債			
買掛金	791	648	655
短期借入金	659	404	359
一年以内に返済予定の長期借入金	862	804	993
2▶ 一年以内に償還予定の社債	20	2,020	2,020
未払法人税等	233	310	288
賞与引当金	204	236	120
その他	375	435	468
流動負債計	3,146	4,861	4,905
固定負債			
3▶ 社債	2,040	1,020	30
長期借入金	429	830	690
退職給付引当金	35	12	20
固定負債計	2,505	1,862	741
負債合計	5,652	6,723	5,646
(純資産の部)			
資本金	1,426	1,429	1,429
資本剰余金	1,189	1,192	1,191
利益剰余金	3,571	3,934	3,757
為替換算調整勘定	△ 44	14	△ 28
その他	16	6	13
少数株主持分	-	101	50
純資産合計	6,159	6,677	6,413
負債・純資産合計	11,811	13,401	12,060

* 百万円未満は切り捨て。

Check Point

1▶ 現金及び預金の増加
無担保社債10億円の発行による。

2▶ 一年以内に償還予定の社債
2007年11月償還の社債20億円。

3▶ 社債について
1年以内に償還予定の社債に20億円の科目移動。償還資金として新たに無担保社債10億円発行。

4▶ 売上原価の減少
VGターボチャージャー部品アッセンブリにおける生産管理、品質管理強化による工程安定化と不良率低下による材料費、外注加工費の減少。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	6,006	6,148	12,095
4 売上原価	4,670	4,636	9,286
売上総利益	1,336	1,511	2,808
5 販売費及び一般管理費	834	942	1,669
営業利益	502	568	1,139
営業外収益	15	11	21
営業外費用	56	67	114
経常利益	461	512	1,046
特別利益	5	3	12
特別損失	8	3	20
税金等調整前中間(当期)純利益	458	511	1,038
法人税、住民税及び事業税	224	297	468
法人税等調整額	△31	△50	27
少数株主損益	-	2	-
中間(当期)純利益	266	266	543

* 百万円未満は切り捨て。

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	1,429	1,191	3,757	△0	6,377	14	△28	△14	50	6,413
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行	0	0			0					0
剰余金の配当			△90		△90					△90
中間純利益			266		266					266
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△6	42	36	50	86
中間連結会計期間中の変動額合計	0	0	176	-	177	△6	42	36	50	264
平成19年9月30日残高	1,429	1,192	3,934	△0	6,554	7	14	21	101	6,677

* 百万円未満は切り捨て。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区分	前中間期	当中間期	前期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	855	972	799
6 投資活動によるキャッシュ・フロー	△313	△1,853	△399
7 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2	931	45
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	27	△0
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	538	77	444
現金及び現金同等物の期首残高	385	829	385
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	924	907	829

* 百万円未満は切り捨て。

Check Point

5 **販売費及び一般管理費の増加**
部品事業における海外プロジェクト立上げ、内部統制構築に伴う管理部門強化による人件費増。

6 **投資活動によるキャッシュ・フロー**
11月償還期限の社債償還金20億円に充当する定期預金の預入による支出15億円があるため。

7 **財務活動によるキャッシュ・フロー**
無担保社債10億円の発行。

会社概要

会社概要(2007年9月30日現在)

社 名 株式会社ニチダイ
(英文表記) NICHIDAI CORPORATION
証券コード 6467
本社所在地 京都府京田辺市新北町田13
創業年月日 1959年5月5日
創立年月日 1967年5月1日
資本金 14億2,930万円
事業内容 精密金型の開発・製造・販売
精密鍛造品およびその関連する成形品の開発・
製造・販売
各種ろ過装置および金属ろ過材料の開発・
製造・販売
各種焼結金属の開発・製造・販売
精密部品の組立および開発・製造・販売
従業員数 387名(連結)、334名(単独)

主要な事業所(2007年9月30日現在)

本 社 京都府京田辺市新北町田13
宇治田原工場 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14
熊谷営業所 埼玉県熊谷市桜木町2丁目88番
浜松営業所 浜松市中区高丘西1-10-20
名古屋営業所 名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル
京都営業所 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14
岡山営業所 岡山県岡山市辰巳22-103 TCKビル

役員(2007年10月1日現在)

代表取締役社長 古屋 元 伸
専務取締役 西村 謙 (金型事業統括 兼
NICHIDAI AMERICA CORPORATION 社長)
常務取締役 藤本 光 洋 (管理統括)
取締役 瀬川 秀 実 (国内営業ゼネラルマネージャー)
取締役 島崎 定 (部品事業統括)
取締役 畑 中 恵 二 (海外営業ゼネラルマネージャー)
取締役 平 岩 益 夫 (ニチダイフィルタ株式会社代表取締役社長 兼
THAI SINTERED MESH CO.,LTD. 社長)
監査役(常勤) 萩野 雅 章
監査役 小原 正 敏
監査役 堤 昌 彦

関連会社(2007年9月30日現在)

ニチダイフィルタ株式会社

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

NICHIDAI AMERICA CORPORATION

(Kentucky)1030 Fortune Drive Richmond, KY 40475, USA
(Ohio)15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA

THAI SINTERED MESH CO.,LTD.

Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo5, Tambol Pasak, Amphur Muang
Lamphun 51000 Thailand

株式情報

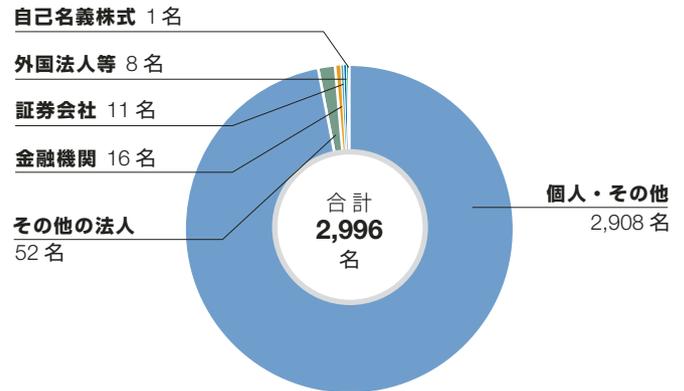
株式の状況 (2007年9月30日現在)

発行可能株式総数	15,500,000 株
発行済株式の総数	9,051,300 株
単元株式数	100 株
株主数	2,996 名

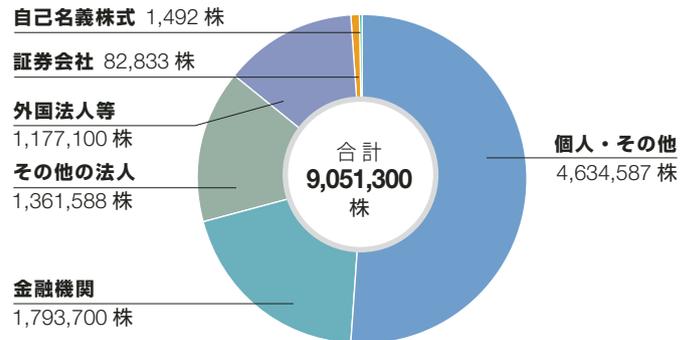
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78%
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	732,600	8.09%
田中善昭	572,092	6.32%
エイチエスピーシーバンクピーエルシーアカウント アトランティスジャパングロースファンド	475,000	5.24%
クレディットバンクエスエイルクセンブルジョワーズ シリウスファンドジャパンオパチュニティズサブファンド	384,000	4.24%
ニチダイ従業員持株会	310,944	3.43%
田中克尚	307,036	3.39%
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.40%
大阪中小企業投資育成株式会社	174,000	1.92%
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリ ノーザントラストガンジーアイリッシュクラリアンツ	154,600	1.70%

所有者別分布



所有者別株式数分布



アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。
この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。
つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函頂きますようお願いいたします。
今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



株式会社 ニチダイ

NICHIDAI CORPORATION

本 社 TEL.(0774) 62-3481 (代)



URL <http://www.nichidai.jp/>

ニチダイへの理解を深めていただくために、
ホームページをご活用ください。

2年連続で「IR優良会社」に選定されました

当社は9月25日、昨年に引き続き、ジャスダック証券取引所から「IR優良会社」として選定されました。当社ホームページにおいて、個人投資家さま向けにわかりやすく事業を紹介している点や、株主・投資家さまとの対話姿勢の重視、中期経営計画の進捗状況を随時掲載していることなどが評価されたものです。

今後も当社は、事業内容や業績について、皆さまにわかりやすく伝えるIR活動を心がけてまいります。



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

公告方法 電子公告
当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp/>)にて掲載

単 元 株 式 数 100株

○なお、株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>